

「A tunnel of Challenger」

ア トンネル オブ チャレンジャー

MV のメインモチーフは、トンネルです。

トンネルは、暗闇。

挑戦に付随する、どうにかなりそうなくらいの
もがきや迷いや苦しみの象徴。

でも、同時に…。

トンネルは、明るい未来への助走になる道。
暗闇だからこそ、光が煌めき、希望が浮かび上がる空間。

挑戦には暗闇がつきもので、
出口を信じられない時もあるけど、
だからこそ、その通路を抜け出た先で
待っている世界は大きく、明るい。

そんな、トンネルというモチーフを舞台に、
Perfume が歌い、歩き、
そして、踊ります。

何かと戦い、立ち向かう人たちが、
心の拳を握り、魂を揺さぶられ、また歩き出せるように。
全てのチャレンジャーに、闘志と勇気を届けるように。

トンネルがモチーフといっても、
終始「暗い MV」という意味ではありません。

トンネルを、ある意味、アーチ型の巨大なスクリーンとも捉えます。

時に、プラネタリウムのように、明るい光が差し込み、
時に、プロジェクションマッピングのように、多彩な光に包まれる。

そして、過去の Perfume の 3 人の映像もトンネル内に映し出され、
" がむしゃらだった日々" の過去の自分たちと、今の 3 人が共存する瞬間も。

3 人の挑戦の軌跡を映し出すように。エモーショナルに。

さらには、この世界で挑戦する人たちの映像も、
ドキュメンタリーのようにプロジェクションされる。
部活や勉強に頑張る学生。新しいことに立ち向かう社会人。
障害を抱えながら戦う人たち。などなど。

みんなの挑戦に、Perfume が勇気を届ける。
戦う人を応援するアンセムに見合った
ミュージックビデオです。



トンネルという象徴的なモチーフを柱に据えながら、3人の魅力的なダンスはもちろん、光や映し出される映像の展開でも常に見どころを用意し、飽きさせない構成にします。

歌詞

映像（字コンテ）

（前奏）

暗闇の道。決意を持って歩く3人の足元。歩みの先には、トンネル。
その中は、闇に包まれ、先が見えない。そのトンネルを見据える、力強い3人の眼光。
3人は力強くその中へ突入する。

We are challenger

トンネルの中。歌い出しと同時に、トンネルの中で
多方面から照らされるライティングを受けて、
踊り始める3人。

ずっと 願ってたって変わらない
絶対なんて決められない
きっと 考えもつかないことは
誰も教えてくれない

白い光が、交錯する。（まだ何色でもない光）

挑戦者を鼓舞するような、
力強いダンス。



見どころ1

どろ臭いと無骨なシチュエーションと、
神々しい3人のコントラスト。
※黒部ダムでのあの歌手の熱唱のような…。

だからボクらは止めない挑戦者
心のモーター回して

やさしく、見守り、応援するような3人。

眩しい期待がいつかキミをキミを燃やす
ボクは若過ぎて意味がわからずにいたけど
夢を見捨てないで 涙で未来がぼやけても
今しかできない 掴め！ 未来未来 見たい

サビの盛り上がりに合わせて、光が多彩になる。
闘志の、赤の光。若さの、青の光。
など、いろんな色が交錯する中、
踊り続ける3人。



見どころ2

アーチ空間で屈折しながら、
多彩に、美しく動くレーザーの光と、
3人のダンスとのコラボレーション。

We can't 言うのは簡単だけれど
まだまだ好奇心に揺られ
I know 知れば知るほどにまた
この世界は広過ぎてた

再び、歩みを続ける。3人。
その先にはさらなる暗闇が。

なのにボクらは止めない挑戦者
心のエンジン燃やせ

ここから、トンネルの壁に、
さまざまな人物が映り始める。
例えば…ダンスレッスンを頑張る高校生たち。
子どもの送り迎えをするママさん。
スーツ姿のサラリーマン。部活の練習に励む中学生。
パラアスリートの選手。高齢の漁師。などなど。
その映像を背景に、みんなを応援するように
踊り続ける3人。



見どころ3

いろんな人の共感をさそう、
一般の方々の戦う姿の映像。
3人のダンスと歌が、応援歌として
より直接的に機能して見える時間。

どうにかなりそうなくらい がむしゃらだった日々
10年後きっとボクは楽に生きてられるはずと
寝るのが怖いほど何かしてなきゃいられなくて
命の祈りが散らしたのは火花火花

そして、いろんな人たちの映像に混じって不意に
“過去の Perfume” の映像が。
「10年後きっと…」という歌詞とシンクロするように、
“過去の Perfume（プロジェクション）” と
“現在の Perfume（リアル）” が共演する。
過去の映像を前に踊ったり、
見つめ合ったり、手を触れ合ったり。



見どころ4

まるで、過去の自分達に、
今の自分達の姿を報告しているような
過去と現在の Perfume の共演。
ぐっとくるエモーショナルの沸点。

We are challenger

歩みをやめない、3人。
トンネルの先へ、先へ。力強く。

眩しい光を超えていつかいつか跳べる？
あの日のボクらに笑顔でいられますように
夢を見捨てないで 涙で未来がぼやけても
今しかできない 掴め！ ボクたちは挑戦者

再び、多彩な光。
これまでに出来た
挑戦者たちの映像が再び映し出される。
多彩な光と、挑戦者たちの映像と、
3人のダンスの共演。
大団円的に。



見どころ5

3人のダンスと、
多彩な光のイルミネーションと、
プロジェクション内の挑戦者たちの姿の
コラボレーション。
応援歌としてのクライマックス。

We are challenger

ついに出口に辿りついた3人。
光で白く飛んだ象徴的な出口。
3人の後ろ姿（黒い影）。光の射す先へ、走り出す。
挑戦の向こう側へ。希望いっぱい。

～企画内容について、気になられる点などを想像して、自問自答してみました～

Q トンネルは、ロケ想定？スタジオ想定？

A 正直、企画段階では、ロケか、スタジオか、決めきれておりません…。
それぞれのメリット / デメリットがあるかと想像しますので、
制作する際に、監督、スタッフのみなさんをご相談しながら、
決定いただく想定でございます。

Q インサートされる一般の方々の映像はどうやって撮る想定？

A 出演者を募集したりするというよりは、
制作サイドからの決め打ちで、いろんな人たちの挑戦している現場に、
事前に、ドキュメンタリーを撮るように撮影しに行く、という想定です。
どんな人たちを撮るかについては、字コンテ内に記しているようなイメージです。
男女や年齢やシチュエーションのバランスを考慮しながら、
時間や諸条件によって、どのくらいの数を取れるかはご相談できればと思います。

Q 「これまでにみたことない Perfume」という観点での見どころは？

A 過去の映像の Perfume がトンネル内に映されながら、
現在の Perfume が踊る、“共演シーン” かと思います。
トンネル内に映し出される、3 人の過去映像のイメージは、
「どうにかなりそうなくらいがむしゃらだった日々」という歌詞とシンクロするような、
例えば、10 年～15 年前のレッスンシーンやリハーサルシーンなどのイメージです。
(一例ですので、もちろん使用可能な中での最適をご相談できればと思います。)
チャレンジャーたちを応援するこの曲は、
自らもチャレンジャーとして今も戦い続ける Perfume だからこそ歌える曲だと思います。
だからこそ、そのことが視覚的に演出できる、この共演シーンが、
見る人の気持ちをぐっと掴む山場にもなるのかなと思いました。

企画書は、以上です。

私自身、この曲を何度も何度も聴いて、
気持ちが鼓舞されました。
応援歌としてのこの曲にぐっと来ました。

自らが励まされる中で、
やはり、「挑戦者を応援するアンセム」としての
この曲の魅力を最大限に広げる
MV になるのがいいなと思いました。

どうにもならないことや、くじけそうになることが多々ある、
この毎日、この世界のために。

どうぞよろしくお願いします。

村橋満